

進路説明_短期大学編

I. 短期大学へ進学するのに、大切なこと

1. 短期大学へ進学するのに、大切なことが3つあります。

① その短期大学を理解する

同じ学科でも、学校によって力を入れていることや入試の方法が大きく違います。まず、その学校の理念や力を入れている点を調べ確認し、自分にあっているか確認しましょう。

② 必ずオープンキャンパスや学校説明会に行く

学校の理念や特徴を理解するため、必ずオープンキャンパスや学校説明会に参加しましょう。

また、学校の立地や、施設・設備、機材など自分の学びたいことができるのか、自分の目で確認しましょう。学生の雰囲気も重要です。自分がともに学ぶイメージをもてることを確認しましょう。オンラインでの開催や予約制の学校もあるので、よく確認しましょう。

③ 進学する費用が用意できるか確認する。

短期大学でも初年度約130万円前後、2年目以降も100万円以上学校にかかります。さらに交通費や生活費もかかります。それだけの費用が出せるのか保護者とよく話し合い、確認してください。

2. 学校を選ぶポイントは3つあります

① 進路先を確認する

短期大学の中には、四年制大学への編入に力を入れている学校もあります。学校の進路先を確認し、自分の目的に合っているか確認しましょう。

また、卒業後の進路が就職の場合、その学校がどこに就職できるかも重要です。自分がどんな業種にどんな職種で就職したいのか、どの地域に就職したいのかイメージし、それに近い就職先があるか確認しましょう。

② 学校が力を入れていることを確認する

短期大学では、内容は学科ごとに異なりますが、地域の中で活動したり、企業や商店街、行政と連携して何かに取り組んでいたりと、学校内で独自の取

り組みをしたりと、それぞれの学校が特徴を持って活動しています。自分もその中に入りいっしょに活動したいと思える学校を選びましょう。

③ 施設設備の充実度を確認する

施設や設備、機材が十分でないと学ぶこともできません。オープンキャンパスや学校説明会で、満足できるか自分の目で確認してください。

II 選抜方法について

I. 短期大学の選抜方法は3種類あります。

- ① 総合型選抜（AO入試）
- ② 学校推薦型選抜（指定校・公募制）
- ③ 一般選抜

2. 総合型選抜について

（I）特徴

- ・ 学校説明会やオープンキャンパスへの参加が前提となっています。
- ・ 短期大学側が「望む学生像」を示す指標（アドミッションポリシー）への適合性や、志願者の意欲・多彩な能力を評価します。
- ・ 成績や出席の基準がないことが多いです。
- ・ 推薦書は必要ありません。
- ・ 時期をずらし、I期～IV期、V期まで設定されている短期大学もあります。
- ・ 志望理由書（入学希望理由書）、活動報告書、学修計画書の提出を求められます。
- ・ 学校により選考方法や選考手順、提出書類が異なります。よく確認しましょう。

（2）志望理由書（入学希望理由書）、活動報告書、学修計画書について

① 志望理由書について

○ 次の3つの点において、具体的に書きましょう。指定の用紙の最後の行までしっかり記入されていることが大前提です。

- ・ この短大を選んだ理由
- ・ この学科で研究したいこと
- ・ 卒業後はどんな職業に就き、どんな活躍をしたいか

② 活動報告書について

○ 自分の高校時代に何をどれだけがんばったか、それにより自分がどれだけ成長したかをアピールする内容にしましょう。指定の用紙の最後の行までしっかり記入されていることが大前提です。

- ・部活動や学校行事での取り組みや成果など
- ・検定・資格の取得など
- ・校外の活動で活躍している人は、そのことでもよい

③学修計画書について

○何を学び、どんな力を身に付け、それがどう将来につながるかをアピールする内容にしましょう。指定の用紙の最後の行までしっかり記入されていることが大前提です。

- ・その短期大学で、実際に行われている授業から示すのがよい
- ・その短期大学やその学科が力を入れている取り組みに関連付けるのもよい
- ・入学前にきちんと準備していることをアピールする

(3) 学校ごとに出される課題について

◎総合型選抜でも必ず学力をはかる試験が出され、それが課題になります。

課題は短期大学ごとに異なります。また、総合型選抜の中に、課題の異なる複数の受験形態を設定している短期大学もあります。必ず令和8（2026）年度版の入試要項で確認してください。

①プレゼンテーション

- ・短期大学側から提示された内容について行います。
- ・使用できる機具（PC等）や道具（模造紙等）が短期大学ごとに異なります。よく入試要項を確認してください。

②小論文（作文）

- ・事前に課題の内容を提示され、書類提出の際いっしょに提出することが多いです。
- ・事前に提示されていたのですから、内容がしっかり書けていることが前提になります。

③授業に参加しての課題提出

- ・課題の授業を受けた上で、課題に取り組み提出ものです。
- ・授業の内容が踏まえられていることはもちろん、課題に対ししっかりと自分の考えを述べる必要があります。

④作品やレポートの提出

- ・ある学校の栄養系の学科では、1週間分の献立を考案し、実際に作って写真を撮り、レポートを作成する課題が出されました。

(4) 入試の流れ

◎大きく2つのパターンがあります。

①出願書類一式と検定料納入をまず行う方式

- ・オープンキャンパスや学校説明会等に参加します。ここで出願に必要な書類が配布される場合もあります。

- ・エントリーシート（学校により名称は異なります）を出願期間の前に提出します。
- ・出願期間内に、出願書類一式と検定料の納入を行います。
- ・後日面接日に提出する課題の連絡がきます。
- ・面接日に課題を提出し、面接を受けます。
- ・エントリーシートと出願処理、課題等を総合的に判断し、可否を決定します。

②先に面接等で第Ⅰ次選考を行い、通過した者のみが出願する方式

- ・オープンキャンパスや入試説明会等に参加します。ここで出願に必要な書類が配布される場合もあります。
- ・事前面談（面接）の予約を取ります。
- ・事前面談の日に、エントリーシートや必要書類等を提出し、面談（面接）を行います。ここまでは検定料はかかりません。
- ・事前面談の通過者に出願許可が発行されます。
- ・出願許可に出願書類を加え、検定料を納入し、出願します。
- ・面談の内容と出願書類を総合的に判断し、可否を決定します。

（５）スケジュール

- ・ ３月から６月の間に学校説明会やオープンキャンパスに複数参加し、比較してから志望校を決めます。予約制の場合もあり、確認をお願いします。
- ・ その後５月から８月までの間に、学校ごとに入試とつながる講座が開かれます。総合型選抜の中にはそれらへの参加が条件になっているものがありますので、忘れずに参加してください。
- ・ また、短期大学の中には、この期間に課題を作成し提出させるところもあります。
- ・ 学校によっては、第Ⅰ次選考の予約が８月から始まります。
- ・ ９月から出願が始まります。願書を出す前に第Ⅰ次選考を行う学校もあります。また、複数回募集している学校もあります。その場合、Ⅰ期、Ⅱ期と出願期間が設定されています。
- ・ １０月になると選考が始まります。第Ⅰ次選考、第Ⅱ次選考と複数回試験がある学校もあります。
- ・ １１月に可否結果の通知がきます。到着後１～２週間以内に入学手続きを完了することが多いです。ここで入学金や初年度納入金を納入することになります。ご準備をお願いします。

3. 学校推薦型選抜（指定校・公募制）について

- (1) 学校推薦型選抜には指定校推薦と公募制推薦があります。
- (2) どちらも推薦書が必要となります。
- (3) 学校推薦型選抜を利用するには、本校の推薦基準を満たしていなければなりません。本校の推薦基準については、進路の手引きをご確認ください。
- (4) 指定校推薦について
 - ①指定校推薦は、上級学校が各高校に対し、基準や人数を示し、高校に推薦を依頼するものです。当然校内選考で推薦者を決定します。
 - ②指定校推薦を受けるためには、オープンキャンパスや学校説明会に参加していなければなりません。指定校の発表は8/1(金)のため、もうオープンキャンパスや学校説明会は終了している可能性があります。指定校での進学を希望していたら、指定校を希望する可能性がある学校には、6月までにオープンキャンパスか学校説明会に参加しておいてください。
 - ③指定校推薦でも、志望理由書（入学希望理由書）、活動報告書、学修計画書の提出が求められます。総合型選抜（AO入試）の（2）と同じですので、よく確認してください。
 - ④指定校推薦でも、面接だけではなく、学力をはかる試験として、プレゼンテーションや課題小論文が出されます。内容が不十分では不合格となるので責任重大です。
 - ⑤指定校推薦は専願ですので、校内選考で決定したら変更や取り消しはできません。また、きちんと卒業する責任も生じます。その点は保護者の方もご理解の上で、推薦の希望を提出してください。
 - ⑥指定校のスケジュール
 - 8/1(金)指定校一覧発表
 - 8/21(木)予備調査提出締切
 - 8/28(木)本調査提出締切希望票の提出は時間まで指定します。遅れたら受け付けられません。
 - 9月初旬 校内選考 → 決定
 - 11月～ 出願
 - 12月～ 合否発表 入学金、初年度納入金納入
- (5) 公募制推薦について
 - ①上級学校が成績や出欠の基準を示し、その基準をクリアした人が受験できます。出願できる人数の制限はありません。
 - ②専願の場合が多いです。その場合、他の学校の受験はできません。
 - ③公募制推薦でも、志望理由書（入学希望理由書）、活動報告書、学修計画書の提出が求められます。総合型選抜（AO入試）の（2）と同じですので、

よく確認してください。

④面接だけでなく、小論文やプレゼンテーション、作品提出等学力をはかる課題が課されます。

⑤不合格の可能性もあります。

⑥公募制のスケジュール

本調査の提出は随時

11月～ 出願、試験

12月～ 可否発表 入学金、初年度納入金納入

4. 一般選抜について

(1) 多くの短期大学では、学校推薦型選抜と総合型選抜で定員のほとんどを確保してしまうので、一般選抜の枠は少ないです。1ヶ月の学校もあります。

(2) 面接や小論文だけでなく、国語、数学、理科、英語などの学科試験があります。2回に分けて実施されることもあります。

(3) 一般選抜は各短期大学で異なるので、入試要項で確認してください。

Ⅲ. 学費について

(1) 入学前の費用について

①奨学金の受給が決まっても、受け取るのは4月からです。入学金や初年度納入金の支払いには充てられません。

②初年度納入金の例(昨年度のもの)

| 学校名 | 学科名 | 初年度納入金(入学金) |
|---------|-------------|--------------------|
| 湘北短期大学 | 総合ビジネス・情報学科 | 1,380,000 円(30 万円) |
| 小田原短期大学 | 食物栄養学科 | 1,410,000 円(34 万円) |
| 和泉短期大学 | 児童福祉学科 | 1,358,000 円(29 万円) |

③入学前の費用には、教育ローンをご利用ください。今年度中に受け取り可能です。政府系の日本政策金融公庫や民間の金融機関で扱っています。

④審査があります。審査には時間がかかりますので、お早めに申し込んでください。

④入学後の学費には、奨学金が充てられます。日本学生支援機構の奨学金の説明は、本校のホームページに掲載しています。ご確認ください。